

《共用サテライト科目 詳細》

* 科目 No.	0612
----------	------

科目概要記入欄

1. 開設大学名	県立広島大学				
2. 科目名	正式科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅱ			
	副題	発声発語・嚥下系障害学演習Ⅱ			
	旧科目名	嚥下障害学—「食べる・飲み込む」とリハビリテーションを科学する—			
	学問分野	番号	3 4	名称	保健（医学、歯学、薬学、看護など）
	科目群	A 群		B 群	
(「共用サテライトキャンパスで開講する授業科目について）を参照)					
3. 担当教員(名前・所属)	矢守 麻奈 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科				
4. 単位数	概論Ⅱ 1 単位 演習Ⅱ 1 単位	5. 開講学期	前期	後期	集中講義 通年
6. 基礎知識の有無	①「基礎知識を必要とする科目」 2. 「基礎知識を必要としない科目」				
7. 開講期間 曜日・時間帯	2013 年 4 月 16 日（火）～2013 年 7 月 23 日（火） 火曜日 18 時 20 分～19 時 50 分（6 時限） 試験期間 授業終了後 1 週間前後				
8. 募集人数	100 人	9. 定員超過時の選考方法	医療・保健・福祉系職員・学生を優先		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>&lt;科目内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下に関する器官の解剖・生理、年齢変化について理解する。</li> <li>2. 摂食嚥下障害の原因疾患、病態、影響について多面的に理解する。</li> <li>3. 種々の摂食嚥下機能検査について、それぞれの特性、適応、技法、解析方法を修得する。</li> <li>4. 種々の基礎的嚥下訓練（間接訓練）・摂食訓練（直接訓練）法についてそれぞれの適応、技法、リスクを修得する。</li> <li>5. 加齢、治療・服薬内容、高次脳機能障害、気管切開・人工呼吸器管理、口腔衛生、味覚・嗜好変化、誤嚥・窒息時の対応等、訓練実施時の留意点について理解・修得する。</li> <li>6. 摂食嚥下リハビリテーションにおける職種間連携、施設間連携について理解する。</li> </ol>				

	<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下器官の解剖・生理：摂食嚥下に関する器官と神経機構</li> <li>2. 摂食嚥下機能の年齢的变化</li> <li>3. 摂食嚥下障害の発症メカニズム：原因疾患、薬剤・呼吸機能・認知機能・姿勢保持機能の影響</li> <li>4. 摂食嚥下障害の影響：誤飲、窒息、誤嚥、誤嚥性肺炎、低栄養、褥瘡 等</li> <li>5. 摂食嚥下障害の検査と評価(1)：情報収集（問診、観察、言語聴覚機能等）</li> <li>6. 摂食嚥下障害の検査と評価(2)：口腔器官機能、冷却刺激、RSST 等</li> <li>7. 医療機関で行う検査と評価：内視鏡、造影検査 等</li> <li>8. 内視鏡・造影画像の解析：誤嚥のタイプとその原因</li> <li>9. 基礎的嚥下訓練(間接訓練)：手技と適応・リスク</li> <li>10. 摂食訓練(直接訓練)(1)：代償嚥下、代償姿勢の手技と適応・リスク</li> <li>11. 摂食訓練(直接訓練)(2)：食物形態、摂取方法、経口摂取回数の調整</li> <li>12. 訓練上の留意点(1)：代替栄養法、口腔ケア</li> <li>13. 訓練上の留意点(2)：認知機能障害への配慮、室内環境、介助者指導</li> <li>14. 摂食嚥下リハビリテーションにおける各職種の役割と職種・施設連携</li> <li>15. 症例検討演習</li> </ol>
11. 試験・評価方法	予習・復習の状況、授業態度、レポート、小テスト、終了時試験等を総合的に評価し、判定する。
12. 負担費用(教材等)	特になし
13. その他特記事項	<p>この科目は広島県民文化センター（鯉城会館）共用サテライトキャンパスで開講します。</p> <p>社会人が科目等履修生（単位付与）または聴講生（単位認定不要）として受講できます。大学にお問い合わせください。</p>